



現地での測量風景

カメラを使用した遺構写真撮影も同時におこないました。

現地ではちょうど春先の黄砂現象がピークに達しており、調査員一同ほぼ毎日吹き荒れる砂嵐との戦いを余儀なくされ、調査終了時にはほとんど現地の方と見分けがつかなくなるほど中国の風土にとけ込んでいました。調査後半には町田章所長をはじめとする一行が、北京の研究所を経て視察に赴き、今後の調査に関する打ち合わせなどをおこないました。

(平城宮跡発掘調査部)

## 中国社会科学院考古研究所との共同研究 (唐長安城の太液池の調査)

昨年8月、新たな5年間の共同研究に調印して以来、研究員交流や秋期事前調査を経て本年4月10日より4月28日までの18日間、奈文研から4名の調査員を派遣しました。調査対象地は、中国西安市内の唐長安城東北部分にあたる大明宮の太液池です。ちょうど池の西岸に当たる場所を昨秋の事前調査に引き続き、調査面積を拡張して東西約95m南北約47mの約4500㎡を調査しています。

今回は、昨秋の調査時に設置した測量基準点を使用して、中国国内座標に合わせて測量、現地の技師とともに精密な図面を作成する作業をおこないました。また、詳細な記録をとるため4×5インチ判の